

第6次高浜市総合計画推進会議（第4回） 会議録																																			
日時	平成26年2月13日（木）午後7時00分～8時00分																																		
場所	高浜市役所 第2会議室（4階）	傍聴人数	11名																																
出席者	委員	中川幾郎、小笠原芳夫、中川勝利、竹内一仁、鈴木康博、 竹内亨弘、井野代司彦、杉浦盛仁、古橋知美、神谷通夫、杉浦幸七 (11名出席)																																	
	行政	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">財務グループ</td> <td style="width: 10%;">リーダー</td> <td style="width: 10%;">竹内正夫</td> <td style="width: 50%;">(財政分科会リーダー)</td> </tr> <tr> <td>文化スポーツグループ</td> <td>リーダー</td> <td>内藤克己</td> <td>(生涯学習分科会リーダー)</td> </tr> <tr> <td>教育センターグループ</td> <td>主幹</td> <td>神谷理</td> <td>(学校教育分科会リーダー)</td> </tr> <tr> <td>経営戦略グループ</td> <td>リーダー</td> <td>山本時雄</td> <td>(産業・観光分科会リーダー)</td> </tr> <tr> <td>市民生活グループ</td> <td>リーダー</td> <td>山下浩二</td> <td>(環境・憩い分科会リーダー)</td> </tr> <tr> <td>都市防災グループ</td> <td>リーダー</td> <td>芝田啓二</td> <td>(防犯・防災分科会リーダー)</td> </tr> <tr> <td>地域福祉グループ</td> <td>リーダー</td> <td>杉浦崇臣</td> <td>(地域福祉分科会リーダー)</td> </tr> <tr> <td>保健福祉グループ</td> <td>リーダー</td> <td>加藤一志</td> <td>(健康分科会リーダー)</td> </tr> </table> (8名出席)		財務グループ	リーダー	竹内正夫	(財政分科会リーダー)	文化スポーツグループ	リーダー	内藤克己	(生涯学習分科会リーダー)	教育センターグループ	主幹	神谷理	(学校教育分科会リーダー)	経営戦略グループ	リーダー	山本時雄	(産業・観光分科会リーダー)	市民生活グループ	リーダー	山下浩二	(環境・憩い分科会リーダー)	都市防災グループ	リーダー	芝田啓二	(防犯・防災分科会リーダー)	地域福祉グループ	リーダー	杉浦崇臣	(地域福祉分科会リーダー)	保健福祉グループ	リーダー	加藤一志	(健康分科会リーダー)
	財務グループ	リーダー	竹内正夫	(財政分科会リーダー)																															
文化スポーツグループ	リーダー	内藤克己	(生涯学習分科会リーダー)																																
教育センターグループ	主幹	神谷理	(学校教育分科会リーダー)																																
経営戦略グループ	リーダー	山本時雄	(産業・観光分科会リーダー)																																
市民生活グループ	リーダー	山下浩二	(環境・憩い分科会リーダー)																																
都市防災グループ	リーダー	芝田啓二	(防犯・防災分科会リーダー)																																
地域福祉グループ	リーダー	杉浦崇臣	(地域福祉分科会リーダー)																																
保健福祉グループ	リーダー	加藤一志	(健康分科会リーダー)																																
事務局	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="4">企画部長 加藤元久</td> </tr> <tr> <td>地域政策グループ</td> <td>リーダー</td> <td>岡島正明</td> <td>(自治推進分科会リーダー)</td> </tr> <tr> <td>同</td> <td>主幹</td> <td>三井まゆみ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>同</td> <td>副主幹</td> <td>鈴木明美</td> <td></td> </tr> <tr> <td>同</td> <td>主査</td> <td>山本衣江</td> <td></td> </tr> <tr> <td>同</td> <td>主事</td> <td>中村彩</td> <td></td> </tr> <tr> <td>同</td> <td>主事</td> <td>岡田真吾</td> <td></td> </tr> </table> (7名出席)			企画部長 加藤元久				地域政策グループ	リーダー	岡島正明	(自治推進分科会リーダー)	同	主幹	三井まゆみ		同	副主幹	鈴木明美		同	主査	山本衣江		同	主事	中村彩		同	主事	岡田真吾					
企画部長 加藤元久																																			
地域政策グループ	リーダー	岡島正明	(自治推進分科会リーダー)																																
同	主幹	三井まゆみ																																	
同	副主幹	鈴木明美																																	
同	主査	山本衣江																																	
同	主事	中村彩																																	
同	主事	岡田真吾																																	
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 あいさつ 2 議題 <ol style="list-style-type: none"> 1) 分科会での進捗状況について 2) 前期基本計画総括の進め方について 3) 「アシタのたかはま研究所」の立上げについて 4) 第3回市民会議（全体会）の進め方について <ol style="list-style-type: none"> ①発表について ②市民会議・分科会の軌跡（振り返り）について 3 その他 																																		
資料	資料1：第6次高浜市総合計画推進会議（第3回）会議録 資料2：分科会の「取り組みテーマ」と分科会開催状況 資料3：前期基本計画総括の進め方について 資料4：「アシタのたかはま研究所」について 資料5：第3回市民会議次第（案） 資料6：発表用フォーマット（案） 資料7：市民会議・分科会の軌跡フォーマット（案）																																		

1. あいさつ

- ・第4回推進会議を始めさせていただく。前回の推進会議開催から約5か月、分科会ごとに進めてきた活動の進捗状況をお聞きしたい。また、いよいよ来月で、市民会議の第3期も、前期基本計画も終了するため、今後の進め方等についてもご意見をいただきたいので、よろしくお願いしたい。

2. 議題

1) 分科会での進捗状況について

各委員より、資料2『分科会の「取り組みテーマ」と分科会開催状況』を基に説明。

会 長： ・前回の推進会議から現在までの分科会の開催状況については、資料2に一覧化されているが、どんな状況であるか、各委員さんから簡単に、1人2分以内でお話を伺いたい。

委 員： ・広報では11月1日号から財政クイズを掲載している。3月1日号で最終となり、全5回ということで進めている。回答率が低く、13~15人程度であるが定着させていきたい。
・もう1つが財政ゲームで、行政の若手職員が中心に考えているが、よくできている。3月14日の全体会での発表を考えている。

委 員： ・今年度は、出前授業に主体を置いて活動してきた。全小学校6年生を対象に、出前授業に出かけようということで、教育委員会や行政にも大変ご尽力いただき、全小学校で実現できることとなった。

・今日最初の授業として、高浜小学校で実施した。みんなで力を合わせて良いまちにしていこう、私たちと一緒に仲間になってみんなで伝えていこうということで活動してきた。

・今回は、全小学校ということで、とても分科会メンバーだけでは実施できなかったため、各学区から協力していただき、全部で28名で実施することができた。

・最終的には、子どももまちづくりの担い手になってくれることが目的。今日話したことだが、子どもたちはあと2か月ほどで卒業して中学生になる。中学生になったら、もう子どもではなく大人の仲間入りをし、まちづくりに協力してほしいと伝えた。

・授業の最後には、生徒から感想を言ってくれたが、各クラスとも「よくまちのことが分かった」「ぼくたちもやるよ」とありがたい言葉が出てきた。

委 員： ・「高浜（まち）の学校」という1つの切り口を継続して、秋の講座をやってきた。1つ1つの講座を、私たちを含めてみんなで共有していくのも1つのやり方ではないかと思う。オリジナル企画だけではなく、良い講座は良い講座として見ていくのも必要。

・また、分科会のメンバーの一人が、企業として、高浜小学校の児童を対象に

エコについての講座をやっていただいた。その際、「高浜（まち）の学校」を冠として使っていただいた。

- ・このように、いろいろな発信源として講座を紹介していくのも1つのやり方だと思う。私たちが地域の人たちといかに連携できるか、情報を発信できるか、そんなことを考えてやっていこうと思う。
- ・また、本来の「達人」を紹介してネットワークを広げていくという部分に帰ると、広報の毎月15日号に掲載されている。まだまだ発信の仕方に問題はあるかもしれないが、継続してやっていくことが大事だと思っている。
- ・1つ1つの講座を皆さんに提供して、その中で1人でも2人でも「良かった」という感想が聞ければ良いと思う

- 委員：
- ・教育基本構想推進委員会の中に3つの委員会があり、今年度は、その中の“学校防災”という委員会の中に参加させていただいている。具体的には、学校が災害時に子どもたちをどういう風にサポートするか、学校の避難所の開設についてなどのマニュアルを作り、メンバーとワークショップをしながら、意見を出し、改善しながら提案してきた。
 - ・まち協との連携も検討し始め、防災の担当職員とも協力しながらやっていくことになると思うが、今後も続けていく。

- 行政：
- ・「高浜野菜」、「瓦の発信」、「アンテナショップ」の3つのテーマに基づいて、高浜で売れるものを作ろうということを目指して活動してきた。
 - ・2月1日、2日に「アンテナショップ」を開催した。当初の計画では、三河高浜駅前、1階の空き店舗を活用して「チャレンジショップ」をと考えていたが、内装などでかなり費用がかかるということもあり、Tポートのスペースをお借りして、実施することができた。2日間ではあったが、のべ2,000人の来場者があり、高浜の物産、商品を情報発信させていただいた。
 - ・瓦については、歌舞伎座の写真を展示するなど、市内の方でも使われていることを知らない方が写真を見られて、改めて高浜の良さを感じ取っていただけたのではないかなと思う。2日間だけということもあり、情報周知も届かなかった部分もあると思うが、実施する側にとっては大きな手応えがあった。
 - ・高浜野菜の1つの候補「ジャンボピーナッツ」のPRということで、小学生にキャラクターを書いてもらい、ワークショップの中で誕生会も行った。子どもたちのにこやかな笑顔の中で、キャラクターが決まったというのも面白味があって良かったと思う。

- 委員：
- ・メンバーみんな非常に熱心にご協力いただき、自分たちの目で、他の行政を研究してお互いに情報交換をし、あるべき姿を求めてきた。
 - ・その中で、特に時間をかけてやってきたのが、1つは「きれいなまちづくりごみ減量の3R作戦」。これを継続的にずっと進めて、最終的にはコストを抑制しながら、これなら市民が参加できる、これは実施しないと恥ずかしい

と思うところまで進めていきたい。

- ・その反面、違反したらペナルティがついてもやむを得ないということも PR し進めていかななくてはいけないのではないかと思う。大きなテーマとして、不法投棄を少なくしたいということについては、かなり時間をかけた。
- ・子どもたちの取り込みをどうしたらよいかということで、学校の協力を得て、高浜小学校の校門の前で、子どもと先生といっしょになって、分別作業の体験学習を行った。
- ・もう1つ皆さんといっしょに考えていかなければいけないのが、現在のゴミステーションのあり方。現行のままのルールで良いのかどうかということも、いろいろな案をまとめている。
- ・また、まちをきれいにしていくということは、自己責任が非常に重要。違反者に対しては、顕在化する、例えば、防犯カメラを使って摘発するなどの厳しさを持っていきたいし、ゴミ袋の有料化も必要かもしれない。ただし、現在のルールではできない人のためには、どういうルールを作ったら良いか考える必要がある。悪い人と、良い人だが今の仕組みだとできない人に対しての仕組みを考えている。
- ・最終的には、これからずっと継続するためには、エコハウスを中心として学習の場づくりを行うなど、しっかり位置づけて進めていく必要がある。学習の推進役として、分科会のメンバーは、環境美化推進員に全員手を挙げ、率先して活動していきたい。

- 委員：・3本の柱の内の1つとして「標高の見える化」の推進を挙げてきた。現在は、670箇所以上の標高シールが市内に貼られている。各町内会に、標高シールを意識した防災訓練を勧めているが、さらに推進していきたい。
- ・2つ目が、市民一人ひとりの「自助」「共助」の認識・理解・行動の推進だった。認識・理解は、かなり進んできたと思うが、問題は行動。特に震災後の行動には、防災・減災の事前行動が非常に大切であるということ、今後とも発信していきたい。
- ・3つ目が、市民会議から生まれた「防災ネットきずこう会」とのコラボ。防災部会は、この「防災ネットきずこう会」とのコラボの方が中心として動き、一昨年の11月には、南部まち協とコラボし、早朝避難訓練が行われ、非常に大きな成果を上げた。昨年12月には、高浜まち協と高浜の防災を考える市民の会が実施している「子ども防災リーダー養成講座」とコラボし、「自助と子ども防災」と題して、防災講座、防災ファッションショーというのを開催した。来年度は、吉浜まち協とのコラボを計画されているとのこと。

- 委員：・今年度は、見える活動をしようということで、パトロールを中心に行政、地域協働して活動してきた。
- ・高浜市が安全なまちかについて、客観的に唯一分かるのが、インターネットなどで出ている犯罪発生率。これを見ることで、犯罪の多い少ないが分かる。

警察が毎月、行政に犯罪発生状況を情報提供している。

- ・この中で、なぜパトロールを強化したかという点、犯罪発生率が、1月は前年比5.5%減だったが、それからどんどん増え、5月には前年比25.5%増となった。そこで、6月には市長から犯罪発生多発非常事態宣言が出され、決起大会が開催され、各まち協、行政、団体の協力をいただき、見える活動、市民に意識を高揚させるためと犯罪者に防犯活動に力を入れていることを知らしめるためのパトロール活動を強化した。その甲斐もあり、8月は39%減、9月は2.3%減、10月は16.1%減、11月は40.4%減ということで、良い結果が出ていた。12月になり年末ということもあってか32.4%増となってしまったが、やはり、皆さんが体感治安を感じるには、パトロール活動によって、皆さんの防犯意識を高揚したり、犯罪を少しでも防ごうという意識が高まると良い。見せるパトロール、市民、行政みんな一体となったパトロールを行うということで、まだこれからも進めていく必要があると思う。

- 委員：
- ・前回の分科会では、分科会活動の振り返りと今後の進め方について話し合った。元々、身近な福祉を皆さんに知ってもらおうということで、ボランティアの人と人をつなげるというところから進めてきたが、その中で生まれた言葉として「NEW ボランティア人」を、誰でもできるボランティアであるということで広く伝えようとして活動したが、まだまだ浸透するには時間がかかると思っている。
 - ・その中から生まれたボッチャの活動を通して、NEW ボランティア人をつくらうということでもあったが、ボッチャは、今後、実行委員会が立ち上がる予定であるため、そこに期待したい。その中で、参加している人もNEW ボランティア人であり、また、そこで養われる人材育成にもつながることを期待している。
 - ・今後どうしたら、地域福祉分科会として何か活動をつなげることができるかということをお話し合ったときに、わくわくフェスティバルでのNEW ボランティア人の啓発活動は、今回実施したときにも、たくさんの方に参加していただき手応えがあったため、今後も、委員として参加したいという声も上がっていたことから、継続できると感じている。

- 委員：
- ・市が進めている、生涯現役のまちづくり事業の中の課題解決チームと合同で進めてきた。市民の健康づくりを考え、進めていくという点では、共通点が非常に多く、それぞれの立場からの意見が多く発言された。
 - ・この中で、南部まち協と社協が協力して実施している「青空市」の取り組みが紹介されたが、健康自生地の取り組みの中でも、カラオケや書道などは趣味的な要素が強く、入りづらいという意見も多い。その点、「青空市」は誰でも出ていきやすい場所であり、その場所を健康自生地に登録してはどうかという意見もあった。
 - ・また、健康には、体の健康と心の健康があり、心の場合は、居場所と役割が

大事で、健康自生地の担い手になってもらうことが大切だという意見が出ている。また、牛乳を飲む人より、牛乳を運ぶ人の方が健康であるという話も紹介された。まさにその通り。

会 長： ・今、全ての分科会の報告をいただいたが、成果が出てきていると感心した。

2) 前期基本計画総括の進め方について

事務局より、資料3『前期基本計画総括の進め方について』を基に説明。

会 長： ・推進会議の役割は、3年間、前期基本計画の進行管理、PDCAを見守って、目標達成に向けた建設的な意見を提示することだった。前期期間が終了したら任期は来ているが、成果の検証と総括をして皆さんに公表するという場面にも立ち会った方が良いと判断できると思う。

- ・皆さん引き続きご了承ください。

3) 「アシタのたかはま研究所」の立上げについて

事務局より、資料4『「アシタのたかはま研究所」について』を基に説明。

【意見等】

委 員： ・中川会長の経験を基に、人口5万人弱である高浜市では、どういう形が最も効果的と思われるかお聞きしたい。

会 長： ・人口10万人までが住民自治がしっかりしている傾向があつて、超えると住民自治の力が落ちていく。そこから、人口20万人までは、行政の効率性が上がっていくが、行政主導型に切り替わってしまう。人口20万人を超えると、どちらのパフォーマンスも落ちていくという統計データが発表されたことがあり、センセーションを巻き起こしたことがある。

- ・大都市ほどパフォーマンスが高いという伝説から、コンパクトシティという思想が注目され、むしろ、小さいことは良いことだというのが主流になっている。そのため、政令都市でも、小さい単位で割っていきこうという流れになっている。高浜市の「まち協」はその流れに沿っている。

- ・高浜市の人口5万人弱というのは、住民自治がしっかり機能する最適規模だと思う。増えるほど落ちてくる可能性がある。都市規模からいっても、財政規模は大きいまちではないが、行政と住民との距離が近く取れるという利点がある。そういう意味で、コンパクトシティという思想に基づいて進めていくのが良いと思う。

委 員： ・次回の市民会議の中で「アシタのたかはま研究所」のメンバーを公募するという話があつた。今心配しているのは、新陳代謝含め、今のメンバーの抱え込みに終わって、一般公募をしないのかといったこと、また、今のメンバーはある程度分かっているため、いろいろな形で囲い込みやすくなるのは分かるが、あまり固守されると、趣旨が違ってきてしまうと思う。一般公募をする予定はあるのか。

- 事務局： ・「③『こうしたい』を実践する」という部分については、今まで関わってき
てくださった方とのつながりがあるため、希望していただける方はぜひ関わ
っていただきたい。加えて、当然、まちづくりに関わる方の裾野を広げてい
きたいという想いはあるため、一般公募という形で、新たな方に関わって
いただけるよう、働きかけはしていく。
- 委員： ・「①政策課題を明らかにする」という部分は、行政が中心に実施するという
ことだったが、本来、今の市民会議は、こういったところを市民目線でいろ
いろな意見を吸い上げるということでやってきたと思う。受益者の視点で、
とも書かれているが、そういったことを分析するためには、行政中心で良い
のか。市民会議でやってきたことと逆行しているのでは。
- 事務局： ・研究所を立ち上げ、政策課題を明らかにする上で、まずは、人口の将来の見
通しなど、市の統計データを集めて、庁内はもとより、市民の皆さんと、ま
ずこのデータは共有しようと。その上で、次の議論に入っていきたい。まず、
そのデータをそろえることが1つの仕事。
- ・その中で、将来、財政的な話も含めて課題が見えてきているため、これをま
ず、行政とアドバイザー、有識者を交えて議論をし、2年目、3年目以降は、
市民の皆さんを交えて実施したいと思っているが、行政がしっかり課題認識
をすることがまずは大事だと思っている。初年度は、行政とアドバイザー、
有識者の中で、コアな政策についてしっかり議論を深めて、その結果に基づ
き、市民の皆さんや経営者の方などを含めて、経営の感覚で見ただけ
の方に集まっていたら、その中身を分析して、将来の光を見出していく。将
来的には、市民の皆さんも交えてやっていきたい。
- 委員： ・3年間これまで市民会議で取り組んできて、いろいろな課題が出ている。課
題が出たところで、このまま進めて良いものと、見直さなければいけないも
のがあり、その結果、こういうことがやりたいから研究所で進めていくとい
う説明の方が分かりやすい。
- 事務局： ・日々の政策課題については、毎年 PDCA を回して進めている。そこで改善で
きることはすぐ又は翌年度改善するというのは、ルーティンの話で回してい
く。
- ・研究所というのは、日々の課題ではなく、例えば、少子高齢化がこういう風
に進んでいくから、ここが課題になってくる、それに対してどうしていこう
という、もう少し将来を見据えた課題を研究する。
- ・日々のところは、内部の PDCA を回す部分、及び、市民会議の皆さんで「③
『こうしたい』を実践する」が課題の解決に向かうということになるため、
そこで力を借りながら、今すぐの課題はここで解決していき、中長期的な課
題は不透明な部分、明らかにされていない、研究が進んでいない部分など、
所管グループでは掘っているが、トータル的にみるということができていな
い部分があるため、そこをしっかりと研究し、そのデータを持ちつつ、市民の

皆さんとキャッチボールをしていきたい。

- 会 長： ・ 2年目からしか市民の皆さんが関われないような誤解を生じているかもしれないが、「②『心地よさ』について議論し、考えを深める」と「③『こうしたい』を実践する」も、同時並行であり、初年度から関わる場所である。
- 事務局： ・ 「①政策課題を明らかにする」は、来年度は行政と有識者を交えて、しっかり課題を研究する。
- ・ 「②『心地よさ』について議論し、考えを深める」は、『心地よさ』について、市民の皆さんとともに、物の豊かさだけではない、高浜市の13k㎡で暮らす『心地よさ』を研究することで「いつまでも住み続けたい」につなげていきたい。3～4回程度、幸せや心地よさについて外部の方をお呼びし、講演いただくことを考えている。2年目以降は、議論につなげていきたい。
- ・ 「③『こうしたい』を実践する」は、市民会議の延長線上で、進行管理にとられず、課題があって解決できることだったら、市民の皆さんと解決していきたい、協働の取り組みという部分である。
- 委 員： ・ 「研究所」という名前はどうか。名前は、今までの「未来を〇〇」などに合わせた方が良いのでは。「研究所」というとあまり良いイメージがない。もっと市民が入りやすい名前にした方が良いと思う。
- 事務局： ・ 「政策力」に力を入れてネーミングした。現段階では、仮称ということでご了承いただきたい。一度検討させていただく。
- 会 長： ・ 市民会議に代わる、市民と行政の「参画と協働」のシステムを作っていくということだと思う。これまでの皆さんが築き上げてきた成果を引き続き、政策に活かしていく仕組みとして、いかに上手く溶かし込んでいくかというのは、行政の職員によるところが大きい。よろしくお願ひしたい。

4) 第3回市民会議（全体会）の進め方について

事務局より、資料5『第3回市民会議次第（案）』、資料6『発表用フォーマット（案）』、資料7『市民会議・分科会の軌跡フォーマット（案）』を基に説明。

—意見・質問なし—

3. その他

・ 今後の日程

第3回市民会議全体会	3月14日（金）午後7時～	中央公民館
第1回推進会議	4月10日（木）午後6時～	終了後懇親会

・ 議事録は書面表決とする。